

プロとして商品開発に情熱を注ぎ、 事業を推進するケミカル製品製造会社



ガラード 株式会社

兵庫県神戸市西区池上 1 丁目 13-6

URL : <http://www.garrard.co.jp>

カーケミカル製品の開発・製造・販売を担う『ガラード』は、「お客様に喜んでいただきたい」との思いを軸に、お客様一人ひとりのニーズに応える製品づくりを行っている。同社の西里社長は 20 年余りカーケミカル業界で活躍してきたというプロフェッショナルだ。本日はタレントの布川敏和氏が同社を訪れ、社長の商品開発に捧げる熱い想いについて詳しくお話を伺った。

SPECIAL INTERVIEW



代表取締役社長

西里 徹高

——まずは西里社長の歩みから伺います。
兵庫県西宮市出身です。大学時代までバレーボールに打ち込んでいました。私は学業修了後は不動産業界へ入りまして。不動産の仕事では良い成績を収めることもでき充実していましたが、ふと将来性を考えた時「本当にこの先ずっとこの仕事を続けていけるのか？」と思っただけです。そんな時、ケミカル開発会社で勤務する先輩の紹介を受け、この業界で働き始めました。元々車が好きでしたし、一からモノづくりに関わるといふところに魅力を感じました。そこから約 20 年にわたって、この業界一筋に歩んできたのです。

——長くご経験を重ねてこられて。現在御社ではどのような事業を手掛けておられるのでしょうか。

現在はカーケミカルや用品、建築や家庭向けケミカルなどの OEM 研究開発をメインにしております。現在の主力アイテムはカーケア製品として、私自身こういうものがあつたら良いなというものを開発してきたつもりです。

——なるほど。しかし自社ブランドではなく、OEM をメインにされているのは、どういった経緯で？

当社はもともと製品製造を手掛ける会社の一部署だったんです。自社ブランドを確立していなかったのですが、自社のコーティング剤が中国でヒットしはじめたこともあり、OEM としてお客様に商品を提供するスタイルに。これをきっかけに研究開発部と営業部署を独立させ、11 年前に事業部を法人化、4 年前に自社社屋を建設する運びとなりました。

——海外ですと特に「メイドインジャパン」の品質が評価されていますから、そこがブランド力だったのでしょうか。

また、当社は当時主流だったポリマーコーティングから、さらに耐久性を強くしたいということでガラスコーティングを開発しました。国内では大手の会社さんがディーラーを抱えて中心となってやられていたので、先に海外で広めようということではアプローチを仕掛けました。実は、海外ではワックス仕上げが主流となっていて、ガラスコーティングに関しては現在でも日本が特化しているんです。そのため、アメリカの大手の会社さんから、共同開発してほしい」とご依頼を頂くこともしばしばあります。

——御社はガラスコーティングの先駆けなのですね、確かな技術力が窺えますよ。現在、従業員さんは何名ほどで？

総勢で 6 名です。少数精鋭で研究開発だけに集中し、より良いものをお客様に提供したい、より多くのお客様に喜んでいただきたいという一心で事業に励んでおります。当社では、お客様それぞれの要望に対応した商品を提供しており、オリジナル配合で作った商品も多数あります。作業効率や性能などお客様によって求める部分は千



布川敏和 (タレント)

「対談中奥様に西里社長の印象について伺うと『常に妥協を許さず、試行錯誤している実直な人』とおっしゃっていました。そのストイックな姿勢と強い探究心も、より良い製品を作り出す要因なのでしょうね！」

差万別なので、同じ材料でも配合を変えるなどしてそれぞれ対応させていただいています。最先端のアイテムに常にアンテナを張っておくというのも大切ですが、どういったお客様、どのような車を相手にするかというところも重要ですね。OEM ですから、少しでも企業様のカラー、独自性を出せるように情報収集に努め、より良い提案ができるよう心掛けています。

——そこまで細やかに対応されているのも、御社の強みでしょうね。お話は尽きませんが今後の目標について教えてください。

当社を長く続け、そしてここで培った技術を多角化し、幅広い場面に発展させたいと考えています。今後は一般家庭向けの商品開発などにも努めていきたいです。そしてもう一つ、当社は働く女性を支える活動を推進しています。小さいお子様がおり、急に仕事を切り上げなくてはならない、なかなか外で働くことができないといった主婦層の方を率先して雇用しようと思っっているんです。そうすることで女性のキャリアを支援する活動に繋がればと考えています。これからも一歩一歩着実に、大きく成長していけたら良いですね。